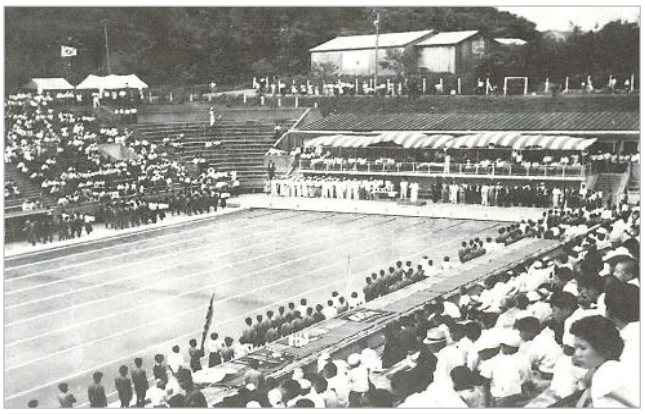
「浜松城公園の今昔」　よもやま話

浜松観光ボランティアガイドの会が主催するイベントの一つに「県民の日」(事業部が企画)の記念行事があります。毎年８月の週末を利用して、浜松の歴史に関連したいろいろな催し物を開催してきました。今までは浜松の街中を散策する屋外での講座でしたが、今年は熱中症も懸念されるため、屋内で座学を行うことにしました。テーマの選定では、夏休み子供講座の「浜松城公園今昔」の資料を活用できないかという意見があり、その方向で進めることにしました。

「浜松城公園今昔」は、徳川家康が浜松に来てから現在まで、特に戦後、昭和20年代から現在までの浜松城公園の施設(建物含む)の変遷について話をして、昭和を振り返る内容です。年配の方には子供の頃の思い出を、そして若い方には生まれる前の浜松城公園の様子を知る良い機会になるのではないかと考えました。

発表用資料は、事業部メンバー全員で収集した浜松城公園と周辺にある昔と今の施設の情報を元に作成しました。対象となった施設は動物園、プール、浜松城天守と天守門、体育館など16の施設です。メンバーからの情報は、当時の写真や施設が出来た経緯など、知らないこともたくさんあり、資料作りには大変役に立ちました。しかし、残念なことは、事業部皆さんの協力で進めてきた企画が、台風の接近により大雨などの気象警報が発令されたため、中止になったことです。

ここでは、「浜松城公園今昔」の中で説明する予定だった懐かしい写真の一部を紹介します。



昭和25年8月、日米交歓水上大会が開催された元城プール

■浜松市営プール：昭和25年８月に４カ月の突貫工事で完成。現在は中央芝生広場。

浜松市動物園の正門前広場

■浜松市動物園：昭和25年11月に「浜松こども博覧会」跡地に静岡県内初の動物園が開園。現在、「作左の森」や日本庭園がある場所。

日本プロレスの父、力道山が生前最後の試合をした体育館

■厚生年金浜松市体育館：浜松市制 50 周年記念事業として、昭和38年４月に完成。現在は浜松城公園駐車場。この体育館は、外観からモスラ型体育館やクロワッサン型体育館などと呼ばれていました。

現在、これらの施設は、モータリゼーションの普及に伴い、市の中心地から離れた場所に移転しています。

事業部　長松谷晃徳（東ブロック）

西ブロックミニ研修『遠州三山・風鈴まつり』

７月13日（土）、西ブロック仲間と袋井の名所旧跡を巡るツアーへ行きました。

最初に向かったのは木原畷(きはらなわて)。木原の地に陣を張っていた武田信玄と徳川家康の偵察隊が衝突し、戦った古戦場です。許禰(こね)神社には木原畷の石碑と徳川家康公腰掛け石があり、その隣の長命寺では笹田源吾供養塔も見学しました。

続いて澤野医院記念館へ。江戸時代末期から地域医療を担ってきた医院の、診察室や手術室、医療機器や居住空間も見ることができ、当時の生活ぶりが垣間見れる貴重な建物でした。

澤野医院記念館

風鈴まつり

そして法多山風鈴まつりへ。2025年に開創1300年を迎える法多山。仁王門をくぐると厳かな空気が漂います。この日は小雨の降る蒸し暑い日でしたが、雨に濡れた木々は鮮やかさを増し、風鈴の音で暑さも和らぐようでした。石畳を進み、長い階段を登って本堂に参拝したあとは、お楽しみの団子茶屋へ。夏季限定の厄除け氷をいただきました。このかき氷は袋井産の甜茶(てんちゃ)を使った自家製の濃厚シロップで、法多山団子がトッピングされており、歩き疲れた身体をクールダウンしてくれました。

厄除け氷

法多山は季節のイベントがたくさん。９月には星満夜、11月には奥之院大祭ともみじまつりがあります。参拝と一緒に季節のお団子も楽しみです。

法多山尊永寺

西ブロック　松島知江子

８月24日（日）、磐田から袋井を巡るミニ研修の第２回を行いました。

磐田市立中央図書館では、企画展「磐田の城と戦国大名～今川から徳川へ」を見学し、今川氏から徳川家康に支配が移るまでの戦国時代の城について学びました。ブロック長の詳細な解説に仲間がうなずいたり、質問をする様子を見た図書館の係員が、「どちらからお越しですか？」と声をかける場面もありました。

鳥芻沙摩明王像

可睡斎では、個人的に今回楽しみにしていたのが「大東司」の見学でした。昭和12年に建築された当時珍しかった水洗トイレで、蓮の手洗い、磨かれた木の床などとても美しかったです。中央に立つ鳥芻沙摩明王像（うすさまみょうおうぞう）は、「トイレの仏様」として有名です。鳥芻沙摩明王は、聖なる炎で人々の心だけでなく日常生活の現実的な不浄も清浄にするということで、禅宗の寺院では東司に祀られているそうです。

油山寺山門

油山寺三重塔

最後に訪れた油山寺には、国や県の指定を受けた文化財が多くありますので、ここでも仲間の解説を聞きながら足を進めました。

入り口に構える山門は、元は掛川城の大手門で、屋根が表と裏の両方にある城門は、全国的にも珍しい造りだそうです。一番の見どころである三重塔は、源頼朝により眼病平癒のお礼として建立され、上層と中下層は違う様式で作られており落ち着いた美しい塔でした。今回も蒸し暑い一日でしたが、緑豊かな樹々の風情や涼しげな風鈴の音色に癒されながらの充実した研修となりました。

可睡斎山門前

西ブロック　兼田涼香

中ブロックミニ研修　講演　「松下氏に関する基礎知識」

９月 23 日(月)、中ブロックの会員 20 名と他 14 名で南部協働センターにて浜松史跡調査顕彰会専門委員・伊平充宏先生の講演をお聴きしました。

分かりやすい伊平先生の講義

地域に馴染みのある松下家ですが、「下垂口に松下嘉兵衛屋敷跡がある」「頭陀寺城の城主だった」「若かりし頃の豊臣秀吉が最初に仕官した武将が松下加兵衛であった」ことぐらいですので、大変興味深く聴くことができました。

最初は、豊臣秀吉との松下家の関係について。「〇〇太閤記」はいくつかあるが、その中でも少年期の秀吉について詳しい「太閤素生記」が一番信頼性があるとのこと。作者土屋知貞は家康から家光まで仕え、祖母は飯尾豊前守の娘だといわれているそうです。後に大名にまで取り立てていることもあり、秀吉と加兵衛との深い関係は 99 パーセント事実といえるとのことでした。

続いて松下家の家系の広がりについて。今川時代から丁寧に説明されました。土豪であった松下家は国人領主飯尾氏の寄子でしたが、遠州忿劇(えんしゅうそうげき)の時期には家康派となった飯尾氏に従い、今川氏真に居城頭陀寺城を焼かれているそうです。

その後、家康配下に入った松下家は井伊家とも縁戚となり、三方ヶ原の戦いでは、武辺の人・都筑秀綱(松下家からの養子)と共に堀江城を守る大沢氏への援軍として活躍し、恩賞を得たそうです。井伊家・山内家・加藤家・柳生家など多くの有力大名、武将との縁戚関係を結び、大名あるいは旗本となって全国に広がった松下家は、江戸時代をたくましく生き抜いていったとのことでした。

時間一杯、盛りだくさんのお話でしたが、講演後は会員からの質問に一つひとつ丁寧に答えていただきました。各種家系図、地図、古文書などの充実した資料もさることながら、さすが現役で中高生を教えておられるだけあって分かりやすいお話だったとの感想がたくさん聞かれました。

明日からの、ボランティア活動に生きるよい研修ができました。

広報部　馬渕　豊（南ブロック）

会員の交流広場

日本の名城を巡る旅 in 沖縄

日本の名城 100 と続名城 100 の登城をライフワークとしており、今回は沖縄にある５つの名城を巡ってきました。

対象の城は、首里(しゅり)城、中城(なかぐすく)城、勝連(かつれん)城、今帰仁(なきじん)城、座喜味(ざきみ)城で、昭和 47 年５月 15 日本土復帰とともに国の史跡に指定され、さらに平成 12 年 12 月２日には、「琉球王国のグスク(城)及び関連遺産群」としてユネスコの世界遺産に登録されました。

これらの城は、明国の影響を強く受けて、1400 年前後に石を積み重ねて築城が行われており、日本よりも 150 年以上も前に石垣の城が出来ていたことになります。

首里城守礼門

この時代の琉球は中山、北山、南山の三つの地域をそれぞれの有力者が支配（三山鼎立時代）しており、防衛のために堅固な石垣で築城したと考えられます。これらの城の中で、北山にある今帰仁城の石垣は硬く加工がしにくい古生代石灰岩のため、野面積みで出来ています。一方、中山の城（首里城、勝連城、座喜味城、中城城）の石垣は珊瑚礁の化石で形成された琉球石灰岩であり、軽くて加工がしやすく、大部分が布(豆腐)積みや相方（亀甲乱れ）積みで形成されています。その城壁は、地形と融合して作り上げられた美しい曲線を描いており、龍が横たわっているような形状になっています。座喜味城と中城城は、琉球随一の名築城家・護佐丸が築いた城で、城壁と一体化したアーチ門にはくさび石がはめ込まれていて、最古の石造アーチ門と言われています。残念ながら、これらの城には天守(城主の館)はありませんが、

座喜味城の城壁

琉球神道の祭祀を行う施設である御嶽(うたき)が見られ、沖縄の城の特徴です。

1429 年、中山の尚思紹王が三山を統一し、琉球王国を作りました。その居城を首里城としたため、その後、中城城、勝連城、今帰仁城、座喜味城は廃城となりました。

東ブロック　長松谷晃徳

会員の交流広場

4泊5日のエジプト旅行

新聞に４泊５日エジプト旅行（団体）の募集の広告が掲載されているのを妻が見つけた。

「一度は行って見たいけど、あまりに遠い」との理由であきらめていたが、「4泊５日なら行きたい」と珍しく妻から話が出たので、「このチャンスを逃すことはない」と、即座に申し込みました。７月 10 日発、14 日戻り、２泊は機中、現地は２日＋7 時間。（時差による）

１日目はカイロ市内のモハメッド・アリモスク、エジプト考古学博物館とマニアル宮殿見学。

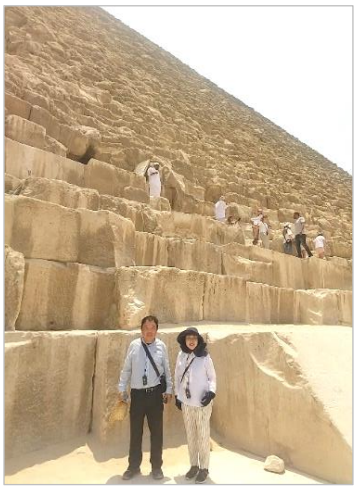
２日目はピラミッドとスフィンクスの見物がメインでした。ピラミッドは 5000 年ほど前から建設されたそうです。（エジプト全体では 100 カ所以上あるらしい？）カイロ大学を卒業した女性ガイドが流暢な日本語で懇切丁寧に 5000 年前から 2500 年間のエジプト史を説明（案内）してくれましたが、私自身がエジプトの歴史がほとんど分かっていないので、ちんぷんかんぷん状態でした。ただ、博物館の展示物の出来栄えや保管状態の良さや、ピラミッドを直に見て、中に入って、そのスケールの大きさと緻密さには圧倒されました。重機がない時代に約 1.5m 角の石を 100 万個以上規則正しく積んであり、しかも石と石のすきまもほとんどありませんでした。

スフィンクス

今回は代表の３代の王様の３個のピラミッドを見て来ました。表面は石灰岩の化粧板（現在はほとんど崩れ去っている）、内部は花崗岩でつくられていたことを知りました。ガイドの説明では「当時のナイル川はピラミッドの近くまで流れており、雨も降り、土壌も豊だった。当時の人はあの世での生活と神の存在を信じており、喜んで人力を提供してピラミッドを建設した。奴隷的な労働はなかった」との話は新鮮でしたし、建設の謎の一つがなくなりました。

ピラミッドの前で

旅行への興味を持つことはボケ防止にもなるそうです。退職（帰国）して約 10 年、便利で安全で清潔な日本で、のんびり生きて来ましたが、久々の海外旅行を体験してみて、「自分から活力がスッカリ無くなった。まずいな。」と思い直しました。今後も旅行する機会を作って活力ある自分を取り戻したいと思います。



1.5m角の石の前で

西ブロック　杉山浩一

９月のガイド活動　≪明く楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの３カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜松城≫

≪犀ヶ崖資料館≫

熱中症対応のため団体ガイド休止

≪浜松まつり会館≫

17 日	火	株式会社　興学社	31 名
18 日	水	**浜松市立三ケ日西小学校**	48 名

はままつ案内人会報　267号

編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946　浜松市中央区元城町 100-2　（浜松城内）

ＴＥＬ　053-456-1303

メールアドレス　mail@hama-svg jp

ホームページ　http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人　検索

浜松　家康公ゆかりの地